

日本あちこち河川遡行記（第267回）

奈良 1-3-1. 秋篠川 終盤（唐招提寺） 令和1年5月24日（金）快晴

薬師寺の二つの伽藍の間の県道122号を東に進み川に戻る。右京橋を診て自転車道を北に向かう。「下極楽橋」、「唐招提寺橋」とお寺と縁の深い名前の橋を診て今度はその「唐招提寺」に向かう。再び西に足を向ける。暑くなってきたぞ。



34.次に「唐招提寺」に向かう

これも広い伽藍の南側が入り口で600円を支払い中へ。「法相宗」の大本山「薬師寺」に対しこちらは「律宗総本山」である。本山を名乗る親戚が多いので「大」や「総」を付けてはるで。

入り口から北に向かうと、両側に高い木々が並ぶ玉砂利の道の奥に国宝の金堂がデンと構えている。華やかな薬師寺から来ると簡素な美と豊かな量感が際立つ。青空と古色蒼然とした金堂との対比が見事である。内陣には国宝の中央に「盧舎那仏座像」、右に「薬師如来立像」、左に「千手観音立像」の巨大な三尊像が並んでおられる。金堂の外からは見えないので写真は無しとなる。伽藍に展開する堂宇は国宝だらけで、多くの仏像なども国宝でここだけで10以上も有る。

静かな境内に時々訪れた来た中国人の声が騒がしく聞こえる。賑やかな中国語とイタリア語、喧嘩をしているような韓国語、コロコロと聞こえるインドネシア語、鼻の通りが良さそうなフランス語、母音が際立つ日本語。最近はユーが増え行きかう言葉は交響曲だ。



35.落ち着いた雰囲気唐招提寺の金堂



36.大きな屋根が際立つ金堂



37.国宝金堂の右奥に建つ鼓楼も国宝だ



38.こちらも間口が広い講堂



39.「宝殿」(左)、「経殿」(右)も国宝だ



40.中国からの観光客が賑やかに

40分ほどかけて伽藍を巡り南大門に戻る。もう一回東に足を向け川に戻る。先ほど見た「唐招提寺橋」に来ると強い日差しを避け、橋の下に釣り師が固

まって川を見ている。じっと座っているのが苦手な当方にはあんなことは出来まへん！



41.日陰で魚釣り、当方は出来まへん

メイン料理が終わったので後は惰性で川を遡行する。大きな養魚場？の東側には再建された「朱雀門」と彼方には東大寺大仏殿と若草山が見える。ここからあの東大寺までが平城宮だったのだろう。



42.右に「朱雀門」、彼方には東大寺大仏殿と若草山が

近鉄奈良線の手前の「西紀橋」まで来ると分かり易い絵地図が有る。丁度キリが良いので秋篠川はここまでとする。予定では更に北に進み「秋篠寺」にも行く予定であったがまたの機会にして大和西大寺駅に向かう。



43.今日はここまでとして西大寺駅に

この駅は奈良線、京都線、橿原線と車庫への出入り線が交わる複雑な配線の駅で、奈良県の交通の要衝である。車庫出入り線と橿原線の下を潜り駅に向かう。途中の坂道の法尻に「フトン籠」が設置されている。イササカ奇異な感じがするが水はけを良くするために設置したのだろう。



44.駅の東は線路と架線がいっぱい 45.こんな所にフトン籠が、排水良好だろ

駅は橋上駅となっておりエスカレーターで二階の改札口に向かう。改札内は広く、各種の店それになんとスーパーまで改札内に有る。涼しく美味げな葛餅が有ったのでお買い上げ。店員に聞くと、「一旦入場券を買って中で買い物をすれば入場料を払い戻しています」とのことである。3面6線の広い駅構内を上手く立体的に利用している。

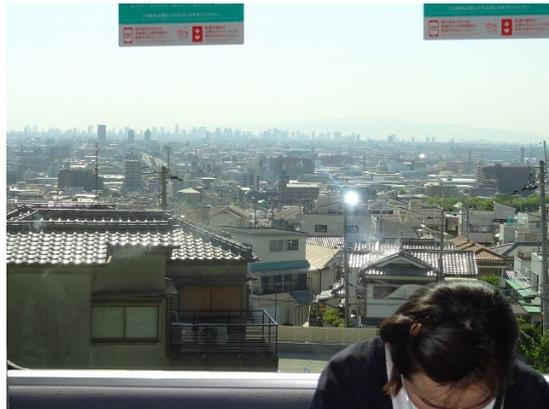
白眉は二階の一番西端に設けられた展望デッキである。全面ガラスに覆われ出っ張ったテラスからは駅に出入りする奈良線と京都線の様子が分かる。小さな子供連れには楽しい所で、当方にも楽しい所である。丁度京都線からのやって来た電車と駅から難波と京都に向かう2本の電車が同時発車でそれぞれ向かって行く。ここを意識した走りだ。できれば東側にも作れないかな。こちら

は奈良線、橿原線、車庫線と三つも見られるのだがな。



46. 駅ナカ展望台から西の方を見ると

新生駒トンネルを過ぎると大阪平野の大パノラマが見える。乗車した三宮行き快速急行の車内からカシャ。線路際の木々や建物が増えシャッターチャンスが難しい。



47. 日本 10 大車窓にした奈良線から見える大阪平野

本日の歩行距離：8.7km。調査した橋の数：23。

総歩行距離：10,434.1km。総調査橋数：13,240。

使用した 1/25,000 地形図：「大和郡山」（和歌山 1 号-3）、「奈良」（京都及大阪 4 号-4）